

## 2024 年度 HODIC 鈴木・岡田記念賞選考報告

HODIC 鈴木・岡田記念賞選考委員長 高橋進 (TOPPAN ホールディングス)

2024 年度 HODIC 鈴木・岡田記念賞選考委員会は、2025 年 2 月 27 日に開催した委員会にて慎重に審議を行い、2024 年度 HODIC 鈴木・岡田記念賞として以下のように技術部門奨励賞 1 件、貢献賞 2 件を選出いたしました。後日幹事会において承認され、受賞が決定しましたのでここにご報告します。

### ■技術部門奨励賞

・塩見 日隆 氏 (高知大学)

塩見先生は、学生の時から一貫してホログラフィの高速計算・データ圧縮に関する研究に取り組んでおり、現在助教として高知大学にてホログラムに関わる研究を行っている。塩見先生が開発した技術は、ホログラム面を多項式で近似することで、ホログラムの計算量を削減するユニークなものである。まだ 20 代であり今後の HODIC を支える貴重な人材となることが期待できる。以上の点から技術部門奨励賞に相応しいと判断した。

対象論文：

塩見日隆、多項式近似を用いた超高解像ホログラムの高速計算、ホログラフィック・ディスプレイ研究会 2024 年 5 月

### ■貢献賞

・Patrick Boyd 氏 (アーティスト)

イギリス在住のアーティスト、パトリック・ボイド (Patrick Boyd) 氏は Royal College of Art (RCA) で写真とホログラフィの修士号を取得し、アートホログラフィー、ホログラフィックステレオグラムやレンチキュラーを用いる技法で活発な作品制作活動を継続してきた。ボイド氏はアートホログラムで国際的に認められており、日本との関わりも深い。米国 MIT でのアーティストレジデンスの後、筑波大学大学院芸術研究科に在籍し、故・三田村峻右 (筑波大学名誉教授) 先生の研究室でも作品の制作に携わった。

このようにホログラフィーアートの分野で国際的に優れた活動を継続し、日本のホログラフィー関係者との長年の交流による文化的・技術的貢献などの活動は貢献賞に値すると考える。

## ■貢献賞

・坂本 雄児 氏（北海道大学）

長年、CGHの研究に携わり、独自の光線追跡（レイトレーシング）法をCGHに応用したCGHレンダリング技術を開発した。本方式は、従来のCGHでは困難であった、陰面消去やシェーディング、影付けのみならず、屈折や鏡面反射などの複雑な表現が可能な方式であり、画期的な技術といえる。また、本方式を活かしたホログラフィックHMDの開発も進め、動画ホログラムに対する貢献も大きい。さらに、研究室からホログラム研究を志す若手研究者も多く輩出しており、人材面での貢献も大きい。

以上のように、坂本先生へのホログラフィ分野及びHODICへの貢献は多大であり貢献賞にふさわしい。

